

発議第 10 号

こころを和ます「静岡市のお茶」に関する決議

上記の議案を下記のとおり提出する。

平成 27 年 12 月 15 日

提出者

池谷大輔	寺尾 昭	石井孝治	山梨 涉	鈴木直明	池邨善満	畑田 響
福地 健	工藤公彦	早川清文	尾崎剛司	西谷博子	平島政二	大石直樹
井上智仁	遠藤広樹	佐藤成子	望月俊明	大村一雄	丹沢卓久	牧田博之
繁田和三	松谷 清	鈴木節子	風間重樹	山本彰彦	馬居喜代子	水野敏夫
中山道晴	山根田鶴子	浅場 武	亀澤敏之	三浦雅司	遠藤裕孝	石上顕太郎
安竹信男	山本明久	内田隆典	白鳥 実	岩崎良浩	望月厚司	栗田知明
井上恒彌	田形清信	栗田裕之	鈴木和彦	伊東稔浩		

こころを和ます「静岡市のお茶」に関する決議

「静岡市のお茶」は、鎌倉時代初期に、栄西禅師、明恵上人、聖一国師、大応国師たちの尽力により、その栽培が始まった。

以来、「静岡市のお茶」づくりは脈々と継承され、「茶どころ静岡」の礎も固まり、江戸末期には重要な輸出品としてお茶は一気に開花し、静岡市は茶の生産地、集散地として揺るぎない地位を築いてきた。

しかしながら、近年の生活様式や食文化、流通の変化は、お茶の消費の姿を大きく変え、茶の収益性や集散地としての機能も低下するなど、生産地は厳しい環境に置かれている。

中でも、本市においては、耕作放棄地などにより、中山間地域の美しい景観の喪失や地域の存続までもが危ぶまれている。

我々静岡市議会は、かかる現状を改善すべく、平成20年12月に、議会の総意をもって「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」を制定したが、度重なる凍霜害や東日本大震災に伴う風評被害なども影響し、未だその改善を見るに至らず、さらなる打開策が急務となっている。

こうした中、「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録や、「食」をテーマとしたミラノ国際博覧会、第69回全国お茶まつり静岡大会などを通じて、お茶が再認識されつつある。

お茶は、静岡市を象徴する最も代表的な地域資源であり、まちの品格を醸し出す文化でもある。

よって、静岡市議会は、貴重な食文化で様々な効能を有する茶を守り育て、世界に広めていくため、議会独自の精力的な活動も行い、生産、販売、消費のあらゆる機会を通じて、こころを和ます「静岡市のお茶」の振興に寄与していく強い決意を表明し、ここに決議する。

平成27年12月15日

静岡市議会